

# 震災の記録と記憶を どうとどめるのか

## —震災資料の収集保存と活用—

【日程】

2014年 6月21日(土)13:00～17:50

【場所】

ホテルルイズ「万葉の間」

(盛岡駅前通 TEL 019-625-2611 / FAX 019-625-2673)

入場無料

### 第1部 震災資料の収集と保存

- 東日本大震災関連資料の保全—福島県双葉町の保全作業から—  
双葉町教育委員会教育総務課生涯学習係総括主任主査 吉野 高光氏
- 震災資料をつなぐ  
—阪神・淡路大震災から東日本大震災へ—  
神戸大学 地域連携研究員 佐々木和子氏
- 手記集から読み解く「震災体験」—20年「記録しつづける」ことの意味—  
阪神大震災を記録しつづける会 事務局長 高森 順子氏

### 第2部 震災メモリアル施設のあり方

- 人と防災未来センターの設立経緯とその活動  
阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究部長 村田 昌彦氏
- 中越メモリアル回廊の取り組み  
長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 研究員 山崎麻里子氏

### パネルディスカッション

- コメンテーター  
○岩手歴史民俗ネットワーク事務局・岩手大学教授 佐藤由紀男氏
- コーディネーター  
○いわて高等教育コンソーシアム・地域研究推進委員会  
盛岡大学教授 大石 泰夫氏

主催/いわて高等教育コンソーシアム

後援/岩手県教育委員会  
岩手県立図書館  
岩手日報社  
朝日新聞盛岡総局  
読売新聞社盛岡支局  
産経新聞盛岡支局  
日本経済新聞社盛岡支局  
共同通信社盛岡支局  
時事通信社盛岡支局  
毎日新聞社盛岡支局  
河北新報社 盛岡総局  
盛岡タイムス社  
岩手日日新聞社

問い合わせ先/盛岡大学総務部  
〒020-0694 岩手県滝沢市砂込 808  
TEL 019-688-5555 (代表) FAX 019-688-5577  
E-mail: soumu@morioka-u.ac.jp  
HP: <http://www.morioka-u.ac.jp/>

本シンポジウムは、  
文部科学省「大学等における地域復興のための  
センター的機能整備事業」の一環として行われるものです。



# 震災の記録と記憶を どうとどめるのか

## —震災資料の収集保存と活用—

### 【日程】

6月21日(土) ホテルルイズ

会場/ホテルルイズ「万葉の間」

(盛岡駅前通 TEL 019-625-2611 / FAX 019-625-2673)

開会 13:00 ~

### 第1部 13:15 ~ 14:45

- 双葉町教育委員会教育総務課生涯学習係総括主任主査 吉野 高光氏
- 神戸大学 地域連携研究員 佐々木和子氏
- 阪神大震災を記録しつづける会 事務局長 高森 順子氏

### 第2部 15:00 ~ 16:00

- 阪神淡路大震災記念人と防災未来センター 研究部長 村田 昌彦氏
- 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい 研究員 山崎麻里子氏

### パネルディスカッション 16:15 ~ 17:50

コメンテーター

- 岩手歴史民俗ネットワーク事務局・岩手大学教授 佐藤由紀男氏
- コーディネーター
- いわて高等教育コンソーシアム・地域研究推進委員会・盛岡大学教授 大石 泰夫氏

《懇親会》 18:30 ~

### 入場無料

【主催】いわて高等教育コンソーシアム

連絡・問い合わせ先

盛岡大学総務部

〒020-0694 岩手県滝沢市砂込 808

TEL 019-688-5555 (代表) FAX 019-688-5577

E-mail [soumu@morioka-u.ac.jp](mailto:soumu@morioka-u.ac.jp)

HP <http://www.morioka-u.ac.jp/>

### 【概要】

## ■震災の記録はその地の歴史であり、 文化そのものである

東日本大震災から三年余が過ぎ、復興計画に基づいた大規模土木工事が本格化して、防潮堤や市街地の整備が目に見えて行われ始めている。そうした中で、被災地に震災遺構を残すことやメモリアル施設の建設計画なども明らかにされつつある。そうした中で、震災の記録と記憶をどうとどめるのかという命題は、東日本大震災において自明のことであるといっていざらう。なぜならば、震災の記録はその地の歴史であり、文化そのものであると認識されてきているからである。

とはいえ、それをどのような考え方でどのように収集し、どのように活用するかということについては、それを行う主体によってさまざまな違いがあり一様ではない。そうした時に非常に参考になるのが、阪神淡路大震災と中越大震災の被災地でのあり方である。この二つの震災は、まったく対照的な被災地に起きた震災である。前者は近畿地方の都市市街地に大きな被害があり、後者は中越の中山間地域が被災地となった。こうした被災地の違いによって、震災の記録・記憶のとどめ方も大きく異なる部分と共通する部分が見られるのである。

本シンポジウムでは、この二つの震災被災地のあり方に学んで、今後進むであろう東日本大震災被災地の記録・記憶のとどめ方に対しての提言を行おうというものである。

第1部は、まず東日本大震災の被災地において行われた被災資料の救済と震災資料の収集の実際について、福島県双葉町の事例を報告いただく。これは当然のことながら現在でも進行中であり、それが今後どのようにして継続されていくかということについての見通しを話していただく。そして、阪神淡路大震災において現在でも継続されている試みを、兵庫県という公の立場からのあり方と、阪神大震災を記録しつづける会という民間の活動のあり方という異なる立場での営みとして提示していただくというものである。阪神淡路大震災後、多くの震災の記録と記憶を残す試みが行われたが、今回お招きしたお二人は震災直後からそれに関わってきた方々であり、震災直後からのあり方の変化などについてもお話しただいて、東日本大震災の場合の参考としたい。

第2部は、阪神淡路大震災と中越大震災のメモリアル施設として、神戸市に兵庫県が作った施設「人と防災未来センター」、長岡市が作った「中越メモリアル回廊」について、それぞれがどのような考え方で作られ運営されているかを提示していただく。お招きしたお二人は、震災直後からメモリアル施設の立ち上げと運営のあり方に精通している方々であり、東日本大震災の被災地にふさわしいメモリアル施設のあり方を考えたい。

東日本大震災は、非常に広範囲が被災地となり、被災地の状況も大きく異なっている。本シンポジウムでは、そうした実情を踏まえ、震災の記録と記憶をどのようにとどめるのかということを多角的に扱って検証し、震災復興に関わる多方面へ提言を發したい。